

「^お上山^ろ城」からのたより 厳冬・第200号

上山藩の大捕り物―江戸の怪力力士 鷲ヶ濱 VS 上山藩の岡つ引き

(公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

豊昇龍・大の里・安青錦、そして、忘れちゃいけない琴櫻(父は尾花沢市出身の元関脇 琴ノ若(現 佐渡ヶ嶽親方))。近年の相撲界は強く個性的な力士が続々と登場し、大変な盛り上がりを見せています。

さて、この日本の国技相撲ですが、その歴史は古く、古文書にその事柄が登場することは珍しくありません。そこで今回は、江戸時代末の古文書に記された上山と相撲に関する出来事を紹介し、みなさんに力士の「凄さ」を歴史的に再確認していただければと思います。

【現代語訳】上山の住人 太田宗三郎の日記「年号記録」(上山城保管)の一説

時は文久元(一八六一)年四月二日。上山十日町の宿 長谷屋で二人の岡つ引き(上山藩で犯罪者捕縛の役目を担った人物)の死傷事件あり。犯人は江戸の相撲取り「鷲ヶ濱」。番付は三段目。力は常人の八

人前。翌三日。七ヶ宿(現 宮城県七ヶ宿町)に逃亡した力「八人前」の鷲ヶ濱捕縛のため、上山藩は岡つ引き「九人」を差し向け捕縛に見事成功。翌日、上山裏町牢へ送りこむ。ところが、同十三日、怪力鷲ヶ濱は金属製の錠前二つを素手で破壊し脱走。翌日、上山藩は役人十三人を差し向け、新庄古口(現 山形県戸沢村)で鷲ヶ濱を捕獲。再び上山に連れ帰り、前より頑丈な「詰籠」に投獄する。

それから約四か月後の八月七日。再び鷲ヶ濱は素手で錠前を破壊。牢の警備人の脇差を奪い、かつ切りつけ、そのまま三度目の脱走を試みるも、駆け付けた役人に取り押さえられ失敗に終わる。



外原森の処刑場近くの風景

九月二十九日、鷲ヶ濱は上山外原森で斬首となるも、同人は牢から処刑場に向かう道中、余裕たっぷり、声高らかに歌を口ずさんでいたそう。もしかしたら「凄さ」よりも「怖さ」の方が伝わってしまったかもしれない。...

それはさておき、当時の力士の持つ「力」と「メンタル」の強さは、多少誇張はあるにせよ、常人の域を遥かに超えるものであったことは間違いないでしょう。

こんな男同士が全力でぶつかり合うのが相撲。力士とは歴史的に見ても、本当に「凄い」存在であるといえるでしょう。

【常設展示室から】抽選で景品が当たる、クイズ上山城探検。毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。